

〈共同研究〉

R. イングルハート (R.Inglehart) の「世界価値観調査 (World Values Survey) データ」の二次的分析のための準備作業 (4)*

—フランス・アメリカ合衆国—

真 鍋 一 史**
Bruno Vannieuwenhuyse***

1. はじめに

本稿は、米国ミシガン大学 Survey Research Center / Center for Political Studies の Ronald Inglehart 教授が主宰する「世界価値観調査 (World Values Survey=WVS)」の素データ (raw data) の共同利用のための準備作業——Source (あるいは Master) Language Questionnaire との比較におけるフランス調査票の検討——の結果を報告するものである。

ところで、このような大規模な国際比較調査について述べようとするならば、同時にそのような調査の素データの収集・整理・保管を担当している「データ・ライブラリー (あるいはアーカイヴ)」についても触れておかなければならない。それは、いまや社会調査とデータ・ライブラリーは切っても切れない関係にあるからにはほかならない。そもそも本稿のような作業そのものが、①調査データの公開と、②そのデータの共同利用を可能にするデータ・ライブラリーの存在、があって初めて成り立つものであるといわなければならない。

こうして、現代の社会科学にとって、データ・ライブラリーの重要性はいくら強調してもしすぎることはない。日本においても、ようやくデータ・ライブラリー設立の機運が熟してきた。このような機運は、東京大学社会科学研究所、筑波大学社会工学系、札幌学院大学社会情報学部、日本世論調査協会などにおいて見ることができる。で

は、どのようなデータ・ライブラリーが望ましいのであろうか。ここでは、その歴史が古く、これまで世界の国々にデータ・ライブラリーの設立を牽引する役割を担ってきたドイツ・ケルン大学の Zentralarchiv für Empirische Sozialforschung (ZA) に注目したい。ZA は、1960年に設立されたヨーロッパで最も古い歴史をもつ社会科学関係のデータ・ライブラリーである。このデータ・ライブラリーについては、ケルン大学の Erwin K. Scheuch 名誉教授による「データ・アーカイヴから社会科学のインフラストラクチャーへ (From a Data Archive to an Infrastructure for the Social Sciences)」と題するすぐれた解説論文がある (ISSJ, 1990)。以下においては、この論文の要点をとりまとめて紹介することにしたい。今後のデータ・ライブラリーのあり方を検討するうえで、多くの学ぶべき教訓と経験が示されていると考えるからにはほかならない。

2. 米国における前史

1945年に開設された Roper Center (RC) は、さまざまな面で(プラスとマイナスの両方の面で) ZA に大きな影響を与えてきた。ZA は、RC を反面教師として発展してきたともいえる。じつは ZA の紹介にあたって、RC の開設にまでさかのぼって再検討を試みることの意味が、まさにこの点にある。

さて、米国においては、古くから大学の図書館に歴史的資料・文書を収集・整理・保管する伝統

*キーワード：二次的分析、データ・ライブラリー、フランス調査票

**関西学院大学社会学部教授

***大阪大学言語文化学部外国人教師

がある。RCは、社会調査の領域における先駆者の一人であった Burns Roper氏がすでに10年間にわたって作成してきた IBM カード形式の資料を Williams College に寄贈したことに始まる。この寄贈のきっかけは、Roper氏が、第二次世界大戦で戦死した息子を悼み、その息子の出身大学である Williams College に貴重な研究データを託そうと考えたことにあった。その後、このデータ保管のセクションが、1957年に大学図書館とは独立したものとなり、その名称も The Roper Center for Public Opinion Research とされたのである。当時、Centerには、2,000以上もの調査研究のデータが、6,000,000枚を越える IBM カードの形式で保管されていたといわれる。それは、いうまでもなく、きわめて貴重な社会科学の領域の共有財産といわなければならない。しかし、まさにこの点との関連で、この Center の重大な問題点が指摘されることになる。それは、大別して、つぎの二点にまとめられる。

(1) Centerは、以上のように、きわめて膨大なデータを保管していたが、そのデータを利用する際に必要となる検索のための工夫がなされていなかった。それは、かつての図書館の図書分類カードと同じようなシステムで、必要なデータを「年代」と「タイトル」に注目しながらカードを繰って、探すというものであった。つまり、結果的には、データの「活用」よりも「保管」に比重がおかれていたといわざるをえないのである。

(2) データの「保管」ということが目的とされたために、Centerの予算は限られたものにすぎず、この予算でデータの検索システムを開発したり、データの整理・加工・活用を促進したりすることは不可能であった。

以上の二点は、まさに「データ・ライブラリー」というものを考える場合の根源的な問いにつながるものといわなければならない。つまり、それは、「データ・ライブラリー」を、①データの「保管」の場として位置づけるか、それとも②データの「活用」の場として性格づけるか、ということである。じつは、ZAがRCを反面教師として学んだ第一の点がここにあったのである。

3. ZAの足跡—設立から1971年まで—

ZAは、経済学者 Günther Schmölder の提案にもとづいて、1960年にケルン大学の一つの institute として設立された。大学付属であるところから、独自の年間予算が保証されていた——具体的にいえば、その運営とスタッフの経費は大学の正規の年間予算に計上されていた——。これは当たり前のように、じつは RC と比べるならば、その違いがはっきりする。つまり、RCはその維持・運営のために、Centerの利用者からの使用料と外部からの資金援助に頼らざるをえなかったものであり、ZAはいわばこのような経営努力の必要がなかったわけである。こうして、その維持・運営の財政的な安定性ということがZAの第一の特徴としてあげられる。

さて、ZAの設立直後から、社会学者の Erwin K. Scheuch が Schmölder とともに、その運営の指導に当ることとなった。この二人の指導者の考え方が、その後の ZA の基本方針となる。それらは、ごく簡単に、つぎのようにまとめることができるであろう。

Schmölder:

①「研究の経済性」ともいうべきことで、そもそも調査データというものは、その調査の所期の目的に合わせて利用されるにとどまるべきものではなく、それを越えて、さらにさまざまな意図や方法にもとづいて活用されるべきものである。

②民間の調査機関 (commercial survey agencies) の調査データが ZA に収集・整理・保管されることで、そのデータの重要性が再確認されることになる。たしかに、このようなデータは、人類の同時代の貴重な記録といわなければならない。

Scheuch:

①ZAに収集・整理・保管される調査データは、社会科学の領域に貴重な実証的 (empirical) データを提供することになるが、そのことをとおして社会科学の実証主義 (empiricism) の傾向が促進されることになる。

②ZAのデータが、これまでの社会的現実 (reality) の「スナップ写真」を「連続写真」へと

様変わりさせることになった。つまり、それによって、それぞれの時代の一時点の現象の観察データにすぎなかったものを、時間的に連続した時系列的な観察データとして提示することが可能になった。

ところで、この当時のZAの直面していた問題といえば、それは調査データの収集ということであった。西ドイツの場合、大学の研究者(academic researchers)は分析が終った後、その調査データをZAに提供するにやぶさかではなかった。しかし民間機関の調査担当者(practitioner)は、調査の問題点——実査の不備、誤差、回収率などが明るみにでる——とくに調査の依頼主(clients)に対して——ことを恐れて——じつは、完全無欠な調査などというものはないにもかかわらず——、調査データの提供に消極的であった。こうして、米国のRCの設立にあたっては、当初から民間機関のイニシアティブのもとに事が進められたのに対して、西ヨーロッパの大学のinstituteにとっては、民間の調査機関の協力をうることはきわめて困難な課題であった。こうして米国のRCが少ない財源のもとで多くのデータを保有していたのと対照的に、ZAでは運営の資金は潤沢であったもののデータの不足という問題を抱えていた。

しかし、幸いにも予算に恵まれていたので、ZAはつぎのような点に取り組むことができた。それは、

- ①大量データの保管(mass storage)技術の開発、
 - ②保管データの文書化(documentation)：説明書、手引書、マニュアルなどの作成、
 - ③検索技法(retrieval techniques)の確立、
- である。

こうして、1960年代の半ばごろには、機械読み取りができるデータ(machine-readable data)——初めは必ずしも調査データということではなかったが——を保管するデータ・ライブラリーというもの、ようやく将来性のある研究拠点として注目を集めるようになってきた。ZAは、1965年、フォルクス・ワーゲン基金からの助成により、まずつぎの二つの事業に取り組むことになった。それは、

- ①コンピュータ支援の検索システム(computer-aided retrieval system)の開発と運営、
 - ②民間調査機関のデータの系統的な獲得——そうしなければデータが散逸してしまう——によるデータの保有量(data holdings)の拡大、
- であった。

4. データ・ライブラリーの国際的な発展

ヨーロッパでは、1960年代半ばごろには、いくつかのデータ・ライブラリーが設立された。以下、各国の動向について、ごく簡単に記しておく。

<ノルウェー>

ベルゲンの Christian Michelsen Institute

<オランダ>

アムステルダムの Steinmetz-Archive

両者は、いずれも広く知られたデータ・ライブラリーであるが、類似点と相異点がある。まず類似点としては、両者が新規に設立されたものではなく、既存の研究施設や資料館の一部門(department)として出発したということがあげられる。そこで、つぎに、両者がどのような機関を母体(parent organization)として生まれてきたかによって、その性格に相異点が出てくることになる。まず前者は、Stein Rokkanの考えかたを反映して、調査データよりも、むしろ国や地方の行政関係のデータ(いわゆる「process-produced data」)の利用を旨とした。この点は、その後のノルウェーのデータ・ライブラリーの基本的な性格として引き継がれていくことになる。

つぎに、後者は、オランダの Sociographyの創立者である Steinmetzの築いてきた伝統を継承しており、すでに設立されていた新聞研究所(Press Institute)の一部門として出発した。その後、Steinmetz-Archiveは、世界世論調査協会(The World Association for Public Opinion Research=WAPOR)の支援のもとにジャーナル「World Polls」を発刊することになった(1970年代に中止された)が、このことから理解されるように、そこでは調査データを定期的に提供するという仕事の重要性が認識されていたのである。

＜英国＞

英国の大学では、これまで何か新しい活動の必要が出てきた場合、その検討を全国委員会 (national committees) に負託するという伝統がある。この線上で、1965年に「社会・経済アーカイヴ委員会 (Social and Economic Archives Committee=SEAC)」が設立された。この委員会が実際の作業の実施機関になったわけではないが、その支援によってコルチェスターに新しく創立されたエセックス大学 (University of Essex) の社会学センター (Center for Sociology) がデータ解析の高度な技法の教育を推進することから始めて、さらに調査データを利用する高度な訓練を提供するデータ・ライブラリーへと発展していった。

＜デンマーク＞

ヨーロッパにおけるデータ・ライブラリーのいわば萌芽期ともいえるべきこの時期に、ZA から数えて五番目のデータ・ライブラリーがコペンハーゲンに設立された。Danish Data Archive がそれである。これは、すでに存在していた国勢調査 (Census) 関連の諸統計を扱う研究機関から派生してきたものである。

＜フランス＞

ヨーロッパ各国のデータ・ライブラリー設立の機運がすべて成功したわけではない。その一つの例がフランスである。フランスではたびたびの試みにもかかわらず、その設立はうまくいかなかった。それは、一つは民間の調査機関の相互の関係が、1945年当時の米国と比べて、はるかに難しいものであったことと、またもう一つは大学が民間との協力を求めず、独自に事を進めようとする傾向があったことによるといえる。こうして、フランスでは、この萌芽期の後、1970年代になって、フランス政府の地方分散 (decentralization) 政策にもとづいて、いわゆる地方大学 (provincial university) の拡大がはかられるようになって、初めてそのような大学の一つ、Grenoble 大学においてデータ・ライブラリーの運営が始められることになる。

さて、以上のようなヨーロッパにおけるデータ・ライブラリー設立の動向に対して、ZA はどのような役割を果たしてきたのであろうか。それ

は、一言でいえば、新しいデータ・ライブラリー設立の「産婆役 (midwife)」に徹するというものであった。つまり、ZA は、その運営に関する情報、そしてデータの保管と検索に関する情報——とくにその失敗も含めて——をすべて提供することによって、その経験的知識をできるだけ新しいデータ・ライブラリーの設立のために役立ててもらおうとしたのである。ここでの基本的な考え方は、さまざまなデータ・ライブラリーが設立されるならば、それら相互間の保有データの交換も含めて、さまざまな協力関係 (co-operation) の可能性が開かれてくるというものであった。

＜米国＞

その後の米国におけるデータ・ライブラリーの動向に関して特筆すべきは、もはや RC だけが唯一のデータ関連施設とはいえなくなったということである。

RC に続く米国第二番目のデータ・ライブラリーは、1964年にパークレイのカリフォルニア大学の Survey Research Center に設立された International Data Library and Reference Service (IDL & RS) である。そして、データ・ライブラリーの運営にあたっては、ヨーロッパで訓練を受けたスタッフの雇用を含めて、ヨーロッパ諸国のデータ・ライブラリーとの協力関係がはかられた。

米国における第3番目のデータ・ライブラリーは、アナーバーのミシガン大学の Survey Research Center に設立された。SRC は、そもそもシカゴ大学の National Opinion Research Center (NORC) とともに、外部資金の導入にもとづいて多くの学術研究を実施し、貴重な調査データを生み出してきた全米で最大の調査機関であった。この SRC と全米21大学が参加して、1962年に発足させたのが Inter-University Consortium for Political and Social Research (ICPSR) である。ICPSR については、別の機会にさらに詳細に紹介しなければならない。

以上のような大規模なデータ・ライブラリーとともに、多くの小規模なデータ・ライブラリーも発足することとなった。その結果、独占的な使用料で財政を賄ってきた RC はその根底を揺さぶられることになる。RC が小さな大学にあって、米

国の民間企業からの財政的な援助に頼ってきたのに対して、ICPSRはミシガン大学における大規模な専門家集団を当てにすることができた。ここでは、米国の研究者のclientsを中心に、大量の調査研究の需要があったので、民間企業からの援助はさほど重要なものではなかった。さらに、米国のいくつかのデータ・ライブラリーがAmerican Council of Social Science Data Archivesを結成するにおよんで、RCの立場はますます弱いものとなった。

このような状況のなかで、RCはこのような競争を勝ち抜くための戦略として、データの収集と提供の国際化という路線をとることにした。RCはヨーロッパ支部の設立を進める一方で、Gallupなどととも、ヨーロッパのビジネス・パートナーに調査データはすべてRC、あるいはRCのヨーロッパの支部にのみ提供し、ヨーロッパのデータ・ライブラリーはボイコットするように働きかけた。ヨーロッパのデータ・ライブラリーは、RCのこのような動きはヨーロッパのデータ・ライブラリーの独立を侵すとともに、データの検索や解析——じつはRCとその支援機関はそれについては専門的知識もなく、また関心さえももっていなかった——の発展を妨げることになると考えた。

この出来事は、データ・ライブラリー設立の動向の一つの転換点となり、その機運は次第に国際化していった。UNESCOのNGO（非政府機関）の一つであるInternational Social Science CouncilはStein Rokkanの進言と奨励のもとづいて、この国際化の方向について決定的な役割を果たした。1962年にはLa Napouleでデータ・ライブラリーに関する初めての国際会議が開かれ、それは1964年にはパリで、1966年にはロンドンでというように継続された。ISSCは、1963年6月にケルン大学で西ヨーロッパのデータ・ライブラリーのための会合を開催した。しかし何といても最も重要であったのは、1966年のロンドンでのISSC会議である。この会議でヨーロッパのデータ・ライブラリーとAmerican Councilのメンバー機関は、満場一致でRCの世界的独占の企てに反対するとともに、そのようなRCの方式に替えて、機械読み取りのできる社会科学のデータの

収集・配布・利用の国際化を進展させるために「社会科学のデータ・ライブラリー常任委員会」のメンバーを任命した。こうして、この会議が、現在まで続いている国際的な協力関係の出発点となったのである。ここで重要なポイントは、この会議において、データ・ライブラリーに関しては、単一の世界センターのようなものは不経済であり、世界中の調査データを一つのセンターに集中させるよりも、それぞれの国にデータ・ライブラリーを分散させ、それらのライブラリー間で相互にデータのやり取りをするというworldwide co-operationの方式の方がより適切であるという確認がなされたことである。

ロンドン会議以後、RCはその役割を再考し始め、世界におけるデータ・ライブラリーの協力関係は著しく向上してきた。ところが新たな問題が、またしても米国からもち上がって来た。それは、ミシガン大学に本拠を置くICPSRが、広くデータを獲得するために、ヨーロッパのスタッフの雇用に乗り出したということである。このような企てがさらに拡大するならば、それは明らかに各国のデータ・ライブラリーの運営を妨害することになる。その後、数年間にわたってヨーロッパのデータ・ライブラリーとICPSRとの間に緊張関係の高まりが見られた。

ICPSRの企ては、ある意味できわめて「アメリカ的」な方式ということが出来る。そして、ICPSRのメンバーの条件についての考え方そのものが、米国においては意味のあるものであっても、国際的には決してそうではなかったのである。米国における社会科学の領域の諸施設がつねに財源の不足に直面していたために、ICPSRもヨーロッパからの付加的な収入を当てにしたのであり、米国のメンバーにヨーロッパのデータを提供するという戦略によって収入の増加をはかろうとしたのである。こうして再びヨーロッパと米国の対立が顕著になってきた。

このような対立に、ひとまず「折り合い (módus vivéndi)」が付けられたのは、やはり国際協調のための新しい組織・機関・団体の結成をとおしてであった。

1976年6月のアムステルダム会議では二つのことが決定された。①「データの乗っ取り屋 (data

raider)」からヨーロッパのデータ・ライブラリーを守るための協力関係の基本ルールを定める、②データ・ライブラリーの集中化の考え方に常に協力して対抗することの実をあげるために **Committee of European Social Science Data Archives (CESSDA)** を結成する、というのがそれである。CESSDA の結成によって、世界のデータ・ライブラリーが協力し合う方向が明確になってきた。その中心的な考え方というのは、一言でいえば、「反データ乗っ取り協定 (non-raiding agreement)」というものであり、そのために「一つの地域 (国) で一つのデータ・ライブラリーがデータを収集する」という原則を立てたのである。こうして、データ提供者が同時に複数のデータ・ライブラリーからの接触によって戸惑うということがなくなり、またデータ・クリーニング、マニュアル作成、データの配布などの同じ作業を異なるデータ・ライブラリーが別々にするというむだを省くことができることになったのである。

国際協調の動向は、さらなる展開を見ることになる。1977年5月、先に述べた ISSC の「社会科学データ・アーカイヴ常任委員会 (The Standing Committee of Social Science Data Archives)」の支援にもとづいて、もう一つの国際会議が Louvain-La-Neuve において開催された。そこに集まったのは、ヨーロッパのすべてのデータ・ライブラリーと、RC を除く米国の規模の大きなデータ・ライブラリーであった。この会議では、Stein Rokkan の提案が採択され、新たに結成されたデータ・ライブラリーの国際組織が **International Federation of Data Organizations (IFDO)** と呼ばれることになった。後に、IFDO は上記の「常任委員会」のほぼすべての機能を肩代わりするとともに、ISSC の系列団体となった。その後、「常任委員会」そのものが廃止され、こうして IFDO と CESSDA がデータ・ライブラリーの国際協力に関するすべての役割を果たすことになったのである。

IFDO と CESSDA のメンバーはつぎのとおりである。

CESSDA MEMBERS

WISDOM, Austria
 BASS, Belgium
 DDA, Denmark
 ZA, FRG
 ZHSF, FRG
 BDSP/CERAT, France
 TARKI, Hungary
 ADPSS, Italy
 STAR, The Netherlands
 NSD, Norway
 SSD, Norway
 ESRC, UK

IFDO MEMBERS

Europe
 WISDOM, Australia
 BASS, Belgium
 DDA, Denmark
 ZA, FRG
 ZHSF, FRG
 BDSP/CERAT, France
 TARKI, Hungary
 Data Archive, Israel
 ADPSS, Italy
 STAR, The Netherlands
 NSD, Norway
 SSD, Sweden
 ESRC, UK
 Overseas
 Social Science Data Archives, Australia
 DL-UBC, Canada
 LSDB, Canada
 Public Archives of Canada, Canada
 SSDL-CU, Canada
 Indian Council of Social Science Research
 DPLS, USA
 ICPSR, USA
 NORC, USA
 The Roper Center, USA
 SSOL-UNC, USA

IFDO と CESSDA との区別は、ヨーロッパの

側からいえば、メンバーはほとんど同じであるところから、きわめて流動的なものであった。それぞれの機能という点からいえば、IFDO はいわば政策決定機関であり、CESSDA はデータ・ライブラリーの運営と協力関係の実質的な問題に取り組んでいった。

IFDO と CESSDA は、いずれも組織の連合体であって、個人会員はいない。米国で後に設立された IASSIST はデータ・ライブラリーで働く個人会員の協会 (association) であり、そのメンバーのほとんどは、国籍の点からいえば「アメリカ人」であり、トレーニングの点からいえば「ライブラリアン」である。IASSIST はいかにも「アメリカ的」であり、CESSDA はやはりヨーロッパの組織 (organization) である。

RC の改組・移転——Yale University (New Haven) と University of Connecticut (Storrs) の共同運営で、本部は Connecticut に置かれた——にともなう、ヨーロッパと米国の協力関係はスムーズになった。しかし RC は、その膨大な保有データ——米国 Gallup の世論調査データを独占的に収蔵している——とは裏腹に、相変わらず財源不足に苦しんでおり、そのために古い調査データは検索が不可能な状態に置かれていた。そこで、ZA との人材の交流が行なわれ、それによって技術移転が進められ、現在では RC は高い評価を有する IFDO のメンバーになっている。

さて、以上において見てきたように、ヨーロッパのデータ・ライブラリーと米国の RC、そして ICPSR との対立は、その背後にあるヨーロッパと米国の財政とサービスについての基本的な考え方の相異点を浮き彫りにする結果となった。まず、RC の場合は、①データの提供者が、データは「資本 (capital)」であり、そこから利潤が生まれるという誤った期待をもった、②商売に馴染んだデータの提供者が学術サービス事業の財政基盤について誤った判断をした、という点が重要である。

つぎに、ミシガン大学の ICPSR の場合は、問題はデータ利用者の支払う料金ではデータ・ライブラリーの運営を十分に賄うことができなかったという点にあった。このことは、たとえば、ヨーロッパの基準からすればきわめて高い学費を徴収

している Harvard University のような大学についても同じように当てはまる。つまり、Harvard も学費だけでは大学の運営がおぼつかなく、そこで常勤のアカデミック・スタッフのサラリーは外部からの寄付金によって賄われているということである。

これらの点に加えて、米国とヨーロッパでは、公共サービスの提供について、社会的・政治的な基盤の相異といったことがある。ヨーロッパにおいては、公共サービスに対しては国から助成金が交付される。ところが米国では、若干の例外を除いて、公共サービスのコストは受益者の負担によって補填されるべきものと考えられている。そのような補填が不可能な場合には、サービスの提供は行なわれない。それは、米国の中規模の大きさの都市には公共の交通機関がないことで明らかであろう。しかし、ICPSR の歴史は、学術研究の領域のデータ・サービスには公的資金の投入が不可欠であるということをはっきりと物語っているのである。

さて、Erwin K. Scheuch 教授の ZA の紹介論文のタイトルは「データ・アーカイヴから社会科学のインフラストラクチャーへ」というものであった。以上において、前半のデータ・アーカイヴとしての ZA の役割について紹介してきた。しかし、後半のインフラストラクチャーの部分が述べられないままに残されている。この部分については、機会を得て、Scheuch 教授の論文の内容に、さらに最新の情報も加えて、より詳細に解説したいと考えている。

(真鍋一史)

5. Source (あるいは Master) Language Questionnaire との比較におけるフランス調査票の検討作業

“European Value survey France”, conducted by Faits et opinions (member of Gallup International), in June-July 1990.

-Item numbers: for each item, both the Canadian item number (“v” numbers) and the French and American questionnaire item numbers are mentioned (not preceded by any

number when they are common to both questionnaires, otherwise preceded by "F" for the French questionnaire numbers and by "US" for the American one) .

-When two words are mentioned with the sign "/", they are alternative translation of the same French word (example: heart/center) .

Comparison of the French questionnaire with the American original.

1. Instructions to the interviewer and to the interviewee.
2. Differences in rating (Completely agree, strongly agree ...) .
3. Differences in wording.
4. Differences in coding. Questions absent in one or the other questionnaire.
5. Differences in form.
6. Spelling mistakes in French.

(Some items are mentioned in more than one category, for example in "3. Differences in item wording", and "4. Coding", etc.) .

1. Instructions to the interviewer/interviewee.

Some instructions to the interviewer or the interviewee are in the American source questionnaire but are absent in the French questionnaire, or vice versa. Sometimes the wording of the instruction is different.

a. Instructions to the interviewer.

1) v 18 (130), v 83 (230), v 133 (322), v 134 (323)

Instruction to the interviewer.

US: The following instruction is absent.

F: "Reverse the order (1-9/9-1) during every second interview".

2) v 97-98 (246-247)

US: 5: None of these.

F: 5: None of these (spontaneous) .

This "spontaneous" is an instruction to the interviewer.

3) v 250 (516-517) to v 256 (528-529)

Instruction to the interviewer.

US: (Interviewer: Hand ballot and pencil to respondent) .

F: This instruction is absent.

4) v 296 to 319 (US 569-570 to 646-647, F 565-566 to 646-647)

Instruction to the interviewer.

US: "Interviewer: alternate reading items A-X and X-A"

F: This instruction is absent.

5) v 323-325 (651-652 to 655-656)

Instruction to the interviewer.

US: "Interviewer: Read introduction then hand ballot and pencil to respondent".

F: This instruction is absent.

b. Instructions to the interviewee.

1) Survey conducted by interviews at the home of the subjects.

Introduction line:

F: "We are now conducting a survey, in France and in other European countries, on what people think about a certain number of important things in life. Would you agree to participate by answering to this questionnaire?"

This survey is anonymous."

US: This introduction line is absent.

2) v 19-54 (131-166), v 69-82 (216-229), v 99-114 (248-263)

Instruction to the interviewee:

US: "Just call off the letters, please" (A-P/A-N/

A-O).

F: This instruction is absent.

3) v 250 (516-517) to v 256 (528-529)

Instruction to the interviewee:

US: ..., or you can choose any number in between.

F: ... You can use the numbers in between to qualify (give nuance to: nuancer) your opinion.

4) Last instruction in the US questionnaire: absent in the French questionnaire.

(“So that my office can check my work in this interview, if it wants, may I have your name, address and telephone number, please?”)

2. Differences in rating.

We found some variations in the degree of acquiescence expressed by the choices given to the respondents to rate the items. For example, in the American questionnaire “4. Strongly disagree” has in some cases been translated in the French questionnaire by “4. Don’t agree at all” (pas du tout d’accord). This is the focus of the first subsection: a. degree of acquiescence. In one instance (v 4-9), the meaning of the different rating choices is precised by a short sentence in parentheses in the French questionnaire, but not in the American source questionnaire.

Sometimes also, the same code is associated with a different rating, for example in the American questionnaire “9. Not answered” and in the French questionnaire “9.?” , which can indicate that the respondent did not answer or that the respondent answered that he / she did not know. This is the focus of the second subsection: b. Same code, different meaning.

a. degree of acquiescence

1) v 4-9 (116-121)

F: 1: very important (the heart/center of your life)

2: quite important (an essential part of your life)

3: not very important (your main preoccupation/concern is elsewhere)

4: not important at all

US: The above precisions in parentheses are absent.

2) -v 12-17 (124-129), v 218-223 (445-450)

US: 1: strongly agree

4: strongly disagree

F: 1: completely agree (tout à fait d’accord)

4: don’t agree at all (pas du tout d’accord)

3) v 55-68 (167-180)

US: 1: uninportant

F: 1: no importance at all (aucune importance)

4) v 83 (230)

US: 4: poor

F: 4: rather poor (plutôt mauvais).

5) v 95 (242-243), v 117 (268-269)

US: 10: a great deal

F: 10: quite/completely (tout à fait)

6) v 96 (244-245), v 116 (266-267), v 132 (320-321)

US: 1: Dissatisfied

10: Satisfied

F: 1: Not at all

10: Quite/completely (tout à fait)

7) v 176 (365-366)

US: Very

F: completely

8) v 180 (370-371)

US: Overall, how satisfied or dissatisfied are you with your home life?

Dissatisfied.

Satisfied.

F: Using this card, would you tell me how satisfied or dissatisfied you are with your home life?

Not at all.

Completely. (tout à fait)

9) v 272-284 (545-557)

US: 2. Quite a lot (Trust).

F: Some trust. (une certaine confiance)

(It is difficult to translate “une certaine confiance”, but it is less strong than the American “quite a lot”) .

10) v 290-295 (US 563-568, F 559-564)

US: Approve/Disapprove strongly.

F: Approve/Disapprove completely (tout à fait).

11) v 340-341 (F 671-672) in the French questionnaire, v 340-347 (US 671-678) in the American questionnaire

US: 2. Trust them a little.

F: 2. Have some trust for them. (une certaine confiance)

b. Same code, different meaning.

1) v 175 (364)

US: 9. Not answered

F: 9.?

2) v 182 (373)

US: 1. Yes-more than once.

2. Yes-only once.

3. No-never

F: 1. Yes, several times

2. Yes, only once.

3. No.

3) v 211 (437), v 212 (438)

US: 9. No answer.

F: 9.?

4) v 247 (477)

US: 1. Agree with statement A.

2. Agree with statement B.

3. Neither.

9. Don't know.

F: 1. I find that ... (statement A)

2. Certainly ... (statement B)

3. ?

3.Differences in wording.

We found differences in the way some items were worded in the American source questionnaire and in the French questionnaire. Given here is our translation into English of the French items, for the purpose of comparison. When the translation into English was not obvious, we sometimes gave two possible translations (for example: heart / center, preoccupation / concern) or gave the French words in italics.

When the difference was due to nation-specific items, we indicated the relevant pages of “Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 World Value Surveys”.

1) v 7 (119)

US: “Leisure Time”

France: “Leisure”.

2) v 11 (123)

US: “do you ever find yourself persuading your friends”

F: “does it happen that you convince your friends...”

3) v 19 (131)

US: Social welfare services for elderly...

F: Charity organizations concerned with social welfare for elderly...

4) v 21 (133)

US: Education, arts, music or cultural activities.

F: Cultural organizations and activities in the domain of education, arts, music, etc.

5) v 24 (136)

US: Local community action on issues like poverty, employment, housing, racial equality.

F: Actions at the scale of the town or the municipality on topics like poverty, employment, housing, racial equality.

6) v 26 (138)

US: Conservation, the environment, ecology.

F: Environment, ecology.

7) v 28 (140)

US: Youth work (e.g. scouts, ...)

F: Organizations for the youth (e.g. scouts, ...)

8) v 30 (142)

US: Women's groups.

F: Women's groups and movements.

9) v 57 (169)

US: An opportunity to repay something, give something back.

F: An opportunity to free oneself from a debt, give something back.

10) v 64 (176)

US: To make a contribution to my local community.

F: To do something for my city or my area (ma commune ou mon quartier) .

11) v 65 (177)

US: To bring about social or political change.

F: To work for social and political change.

12) v 66 (178)

US: For social reasons, to meet people.

F: To participate socially, to meet people.

13) v 67 (179)

US: To gain new skills and useful experience

F: To acquire new techniques and useful experience.

14) v 68 (180)

US: I did not want to, but could not refuse.

F: I was not motivated, but could not refuse.

15) v 87 (234)

US: Very lonely or remote from other people

F: Very lonely and cut from other people

16) v 97-98 (246-247)

-1: US: Because they are unlucky.

F: Because they were unlucky (parce qu'ils n'ont pas eu de chance) .

-2: US: Because of laziness and lack of willpower.

F: Because of laziness or lack of goodwill/unwillingness (mauvaise volonté).

-3: US: Because there is injustice in our society.

F: Because there is a lot of injustice in our society.

-4: US: It's an inevitable part of modern progress.

F: It's inevitable with the evolution of the modern world.

17) v 99-114 (248-263)

US: Here are some aspects of a job that people say are important.

F: Here are some traits which can be considered as important for a job or a professional activity.

18) v 100 (249)

US: Pleasant people to work with.

F: The work atmosphere is good.

19) v 101 (250)

US: Not too much pressure.

F: One is not rushed around (also maybe meaning of “disturbed”) (On n’est pas bousculé).

20) v 103 (252)

US: Good chances for promotion.

F: One can hope for a promotion.

21) v 106 (255)

US: An opportunity to use initiative.

F: One has initiative.

22) v 110 (259)

US: A job in which you feel you can achieve something.

F: It’s a job which gives the feeling to succeed something.

23) v 113 (262)

US: A job that meets one’s abilities.

F: A job in which one can use well one’s abilities.

24) F: 264

US: 1: working full-time

2: working part time

3: not working

F: 1: having a paid professional activity.

2: not having a paid professional activity.

25) v 119 (271)

US: I will always do the best I can, regardless of pay.

F: I would always do the best possible, regardless of pay.

(maybe a misprint: in French, the difference between “will” and “would” is just an “s” at the end of the verb. There is no difference in

pronunciation, but here subjects were asked to read the card themselves; however, it is likely that a number of people do not notice the difference).

26) v 123 (275)

US: I never had a paid job.

F: I never had a professional activity.

27) v 127 (279)

US: ... Others say that one should follow one’s superior’s instructions only when one is convinced that they are right.

F:Others say that one has to follow one’s superior’s instructions only if one is convinced that his/her instructions are justified.

28) v 131 (319)

US: It is unfair to give work to handicapped people when able-bodied can’t find jobs.

F: It is unfair to give work to handicapped people even though able-bodied can’t find jobs.

29) v 135-141 (324-330)

Introduction line:

US: “I am going to read out a list of statements about the meaning of life.”

F: “I am going to read out opinions that one can have or not have about life, death and suffering.”

30) v 138 (327)

US: Death has a meaning only if you believe in God.

F: Death has a meaning only if God exists.

31) v 142 (331)

A./1. (A: in the French questionnaire; 1: in the American one)

US: ... They always apply to everyone, whatever the circumstances.

F: They always apply, whatever the circumstances.

B./2. (B: French; 2: American)

US: What is good and evil depends entirely upon the circumstances at the time.

F: It depends entirely upon the circumstances.

32) v 143 (332)

US: Do you belong to a religious denomination?

F: Do you consider that you belong to a religion?

33) v 144 (333), v 145 (334)

(NOT FOUND IN “Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 world value surveys”, pp 40-43, v 144 and 145 Religious denomination)

US: Roman catholic

Main-line protestant

Fundamentalist protestant

Jew...

F: Catholic

Protestant

Jew.....

34) v 146 (335)

US: Were you brought up religiously at home?

F: Were you brought up religiously?

35) v 147 (336)

US: ... how often do you attend religious services these days?

4. Christmas/Easter day_5. Other specific holy days....

F: how often do you attend religious services?...

4. Only at Christmas or Easter.

5. Other holy days.

36) v 148-150 (337-339)

US: Do you personally think ...

F: Do you think ...

37) v 152-155 (341-344)

US: Generally speaking, do you think that your Church is giving, in your country, adequate answers to...

F: Generally speaking do you think that in France the Church is giving an answer to

38) v 161 (350)

US: Racial discrimination

F: Social discrimination.

39) v 178 (368)

US: Do you take moments of prayer,

F: Does it happen that you take moments for prayer,

40) v 179 (369)

US: How often do you pray to God outside of religious services? Would you say

1. Often....

F: Outside of religious services, does it happen that you pray to God? Does that happen to you

1. Often....

41) v 180 (370-371)

US: Overall, how satisfied or dissatisfied are you with your home life?

F: Using this card, would you tell me how satisfied or dissatisfied you are with your home life?

42) v 183-189 (374-380)

US: Do (did) you and your partner share any of the following?

F: In the following fields, do you and your spouse (or partner) share the same viewpoint about ...

43) v 184 (375) and v 191 (417)

US: Moral attitudes

F: Moral principles

44) v 186 (377) and v 193 (419)

US: Political attitudes

F: Political opinions

45) v 198-210 (424-436)

US: Here is a list of things which some people think make for a successful marriage.

F: Here is a list of things which are said to contribute to a successful marriage.

46) v 206 (432)

US: Living apart from your in-laws.

F: Living apart from the parents-in-law.

47) v 215 (442)

US: Do you think that a woman has to have a home in order to be fulfilled or is it not necessary?

Note: the English “fulfilled” was translated into French as “s’épanouir”, which is probably a good translation, even though it is not a direct translation (“s’épanouir” : to blossom, to bloom) .

48) v 217 (444)

US: If a woman wants to have a child as a single parent but she doesn’t want to have a stable relationship with a man, do you approve or disapprove?

F: If a woman wants to have a child and stay single, that is to say she doesn’t want to live permanently with a man, do you...

49) v 220 (447)

US: ...but what most women really want is a home and children.

F: ...but what most women really want is a home and a child.

50) v 223 (450)

US: Both the husband and wife should contribute to household income.

F: The husband and wife must contribute to household resources.

51) v 226-236 (453-463)

US: Here is a list of qualities which children can be encouraged to learn at home.

F: Here is a list of qualities which parents can try to encourage in their children.

52) v 232 (459)

US: Thrift, saving money and things.

F: Thrift, not wasting other people’s money.

53) v 235 (462)

US: Unselfishness.

F: Generosity.

54) v 236 (463)

US: Obedience.

F: Loyalty (La loyauté) .

55) v 244 (474)

US: Attending lawful demonstrations.

F: Attending an authorized demonstration.

56) v 245 (475)

US: Joining unofficial strikes.

F: Joining a wildcat strike.

(in French greve sauvage; in French, the meaning is near “unauthorized”, “not organized”, altogether probably describing the same reality as the American wording).

57) v 246 (476)

US: Occupying buildings or factories.

F: Occupying offices or factories.

58) v 247 (477)

US: A. I find that both freedom and equality are important. But if I were to choose one or the other, I would consider personal freedom more important,

F: 1. I find that freedom and equality are equally important. But

59) v 254 (524-525)

US: Competition is harmful. ...

F: Competition is dangerous.

60) v 256 (528-529)

US:1 People can only accumulate wealth at the expense of others.

10 Wealth can grow so there's enough for everyone.

F: 1 It's only at the expense of others that one can reach wealth (/become rich).

10 Wealth makes development possible so that it's good for everybody.

61) v 257 (530), v 258 (531)

US: There is a lot of talk these days about what the aims of this country should be...

F: There is a lot of talk about the aims that France should strive to attain

62) v 257 (530)

US: Making sure this country has strong defense forces.

F: Making sure our country has a strong army to defend itself.

US: Seeing that people have more to say about how things are done at their jobs and in their communities.

F: Seeing that people have more to say in their job, their area, their city.

63) v 259 (532), v 260 (533)

US: Giving people more say in important government decisions.

F: Increasing citizens' participation in government decisions.

US: A stable economy.

F: Ensure that the economy runs steadily.

64) v 271 (544)

US: In the long run, ...

F: In the future, ...

65) v 275 (548)

US: The legal system.

F: The laws.

66) v 283 (556)

(see "Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 world value surveys" p 27)

US: TV newscasters

F: The European Community.

67) v 296 (US 569-570, F 565-566)

US: Claiming government benefits which you are not entitled to.

F: Claiming benefits beyond what you are entitled to.

68) v 297 (US 571-572, F 567-568)

US: Avoiding a fare on public transport.

F: Avoiding a fare in the train or the bus.

69) v 302 (US 612-613, F 577-578)

US: Keeping money that you have found.

F: Keeping money that you have found in a public place.

70) v 320 (648), v 321 (649)

(see "Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 world value surveys" pp 43-44, v 320, v 321. Geographic region with which one identifies)

US:

4. North America.

F:

4.Europe.

71) v 340-341 (F 671-672) in the French questionnaire, v 340-347 (US 671-678) in the American questionnaire

US: I now want to ask you how much you trust various groups of people. Using the responses on this card, could you tell me how much you trust... (READ)

- a) Your family
- b) American people in general
- c) Black Americans
- d) Hispanic Americans
- e) Canadians
- f) Mexicans
- g) Russians
- h) Chinese

F: I now would like to ask you how much you trust people.

Items c) to h) (v 342 to 347) are absent in the French questionnaire.

(see "Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 world value surveys" pp 44-48, v 340-347 Trust in various groups)

72) v 351 to 352 (F 674-675 to 678-679)

(see "Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 world value surveys" p 48, Political party codes)

- F: 1. Extreme left.
 2. Communist party.
 3. Socialist party.
 4. Left radical movement (MRG)
 5. Radical party (UDF)
 6. Social democrat center 5 UDF, CDS)
 7. Republican party (UDF, RPR)
 8. Rally for the Republic (RPR) .
 9. National Front.
 10. Ecologist movement.
 11. None
 12. ?

73) v 356 (721-722)

US: At what age did you (or will you) complete your full time education ...

F: At what age did you complete your full time education ...

74) v 358 (724)

US: Are you yourself employed now or not? ...

- 1. 30 hours a week or more.
- 2. Less than 30 hours a week.
- ...
- 7. Unemployed.
- 8. Other (please specify).

F: Do you have now a paid professional activity?

- 1. 30 hours a week or more (full time) .
- 2. Less than 30 hours a week (part time) .
-
- 7. Unemployed.
- 8. Other (please specify) .
- 9. No answer.

75) v 359 (725-726), v 362 (729-730)

US:

- 3. Professional worker (lawyer, accountant, teacher, etc.)

F:

- 3. Professional worker, executive.

76) v 363 (731-732)

US: Here is a scale of incomes and we would like to know in what group your household is, counting all wages, salaries, pensions and other incomes that come in. Just give the letter of the group your household falls into, before taxes and other deductions.

F: We would like to analyze the results of this survey according to the family income of the people we have questioned. Here is a scale of incomes. Can you tell me at which level you are, counting all your household's incomes: salaries, family benefits (allocations familiales), pensions, other incomes Just give the letter of the group your household falls into.

77) v 363 (731-732)

(see "Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 world value surveys" p 64, v 363 Family income)

F: 1. Less than 3000 French Francs (FF) per

month.

2. 3000-4000 FF
3. 4000-5000 FF
4. 5000-6500 FF
5. 6500-8000 FF
6. 8000-9500 FF
7. 9500-11000 FF
8. 11000-12500 FF
9. 12500-14000 FF
10. 14000-16000 FF
11. 16000-18000 FF
12. 18000-20000 FF
13. 20000-22000 FF
14. 22000-25000 FF
15. 25000 FF and over

78) v 364 (733)

(NOT FOUND IN “Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 world value surveys” p 73, v 364 Economic status).

US: Socio-economic status of respondent

1. AB (Upper, upper-middle class)
2. C 1 (Middle, non-manual workers)
3. C 2 (Manual workers-skilled, semi-skilled)
4. DE (Manual workers-unskilled, unemployed)

F: Economic status of interviewee

(write from your own impression)

1. Very well-off, among really rich people
2. Well-off
3. Average
4. Modest/humble background.
5. Underprivileged/disadvantaged.

79) v 368 (742)

(see “Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 world value surveys” p 73, v 368 Size of community)

F: 9. Paris and its suburbs (Greater Paris).

US: Item 9. in absent in the American questionnaire (nation-specific item) .

80) v 370 (US 744, F 743-744) (see “Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 world value sur-

veys” p 78, v 370 Region codes)

F: 1. Ile de France

2. North
3. East
4. Paris basin, East
5. Paris basin, West
6. West
7. South-West
8. South-East
9. Mediterranean

4. Differences in coding. Questions absent in one or the other questionnaire.

We found some differences in the way items or rating choices were coded, for example “don’t know” is associated with “4.” in the American questionnaire and “9.” in the French questionnaire. This is the focus of the first subsection: a. Differences in coding.

Some questions were altogether absent in one or the other questionnaire: this is the focus of the second subsection: b. Questions absent in one or the other questionnaire.

a. Differences in coding.

1) v 10 (122)

US: 1: frequently

2: occasionally

3: never

4: don’t know

F: 1: frequently

2: occasionally

3: never

9: don’t know

2) -264

US: 1: working full-time

2: working part time

3: not working

F: 1: having a paid professional activity.

2: not having a paid professional activity.

3) v 183-189 (374-380)

US: "Code "0" if not mentioned".

F: This instruction is absent.

4) v 217 (444)

US: 1. Approve

2. Disapprove.

3. Depends.

9. Don't know.

F: 1. Approve.

2. Disapprove.

3. Depends.

0. ?

5) v 225 (452)

US: 1.

2.

3. Neither.

9. Don't know.

F: 1.

2.

9.

6) v 264 (537) to v 270 (543)

US: 1. Good

2. Bad

3. Don't mind

(no card)

F: 1. Good thing

2. Bad thing

3. Don't mind

9 ?

(Card II)

7) v 272-284 (545-557)

US: 1. A great deal

2. Quite a lot.

3. Not very much.

4. None at all.

(Card II)

F: 1. Great trust.

2. Some trust.

3. Not much trust.

4. No trust at all.

? 9

(Card JJ)

8) v 358 (724)

US: Are you yourself employed now or not? ...

1. 30 hours a week or more.

...

8. Other (please specify) .

F: Do you have now a paid professional activity?

1. 30 hours a week or more (full time).

....

8. Other (please specify).

9. No answer.

9) v 359 (725-726), v 362 (729-730)

US: 3. Professional worker (lawyer, accountant, teacher, etc.)

F: 3. Professional worker, executive.

....

98. No answer.

10) v 363 (731-732)

US: 1 2 ... 9 10

C D ... K L

F: 1

2

...

15

88: no answer

11) v 364 (733)

US: Socio-economic status of respondent

1. AB (Upper, upper-middle class)

2. C 1 (Middle, non-manual workers)

3. C 2 (Manual workers-skilled, semi-skilled)

4. DE (Manual workers-unskilled, unemployed)

F: Economic status of interviewee

(write from your own impression)

1. Very well-off, among really rich people
2. Well-off
3. Average
4. Modest/humble background.
5. Underprivileged/disadvantaged.

12) v 367 (741)

US: 1. Very interested

...

3. Not very interested

F: 1. Very interested

...

3. Not very interested

8. ?

13) US 742.a)

This question (“write in clear the town where the interview was conducted”) does not have a code in the French questionnaire (it is between questions F 741 and F 742) .

14) v 368 (742)

US: 1. Under 2000

...

8. 500,000 and more.

F: 1. Under 2000

...

8. 500,000 and more.

9. Paris and its suburbs (Greater Paris).

15) v 370 (US 744, F 743-744)

US: 1. New England

...

10. California

F: 1. Ile de France

2. North

3. East

4. Paris basin, East

5. Paris basin, West

6. West

7. South-West

8. South-East

9. Mediterranean

b. Questions absent in one or the other questionnaire.

1) v 285 to v 289 (US 558 to 562), v 342 to 400 (US 673 to 776)

Absent in the French questionnaire.

(NOT FOUND IN “Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 world value surveys” pp 27-28)

2) US 728. b), 729-730

These 2 questions are one in the French questionnaire: F 729-730.

3) v 365 (US 734-737)

Absent in the French questionnaire.

(On the first page of the French questionnaire, there is a space to write the time the interview starts and the time the interview ends, without any coding).

4) v 369 (US 743)

Absent in the French questionnaire.

(NOT FOUND IN “Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 world value surveys” pp 75-78, v 369 Racial/ethnic background)

5) v 374 (F 673)

Absent in the US questionnaire. This question was asked only in Western Europe.

(see “Codebook for 1981-1984 and 1990-1993 world value surveys” p 37, V 374 European integration scale).

6) F 678-679

Absent in the US questionnaire.

In the US questionnaire, this question is part of question US 712-713 (v 351) .

Translation into English:

Q. 678/679 (For those who did not answer to the two previous questions)

And which party appeals to you most?

7) F 747

Absent in the US questionnaire.
(Age category of the interviewee).

Printed: "... si vous m'avez deja fait, ..."
Correct: "...si vous l'avez deja fait,"

5. Differences in form.

No differences in form (horizontal / vertical presentation,...) were found between the French questionnaire and the American source questionnaire.

4) v 252 (520-521)

Printed: ...tout emploi disponible bien de
Correct: ..tout emploi disponible ou bien de....
(There cannot be any possibility of misunderstanding from this print mistake)

6. Spelling mistakes in French.

We indicate here the spelling mistakes we found in the French questionnaire, as well as the correct spelling.

5) v 328 (659)

Printed: souvant
Correct: souvent

1) v 120 (272)

Printed: Travailler pour avoir le quoi vivre.....
Correct: Travailler pour avoir de quoi vivre.....
(the reader probably corrects automatically because it is only one letter which is wrong and there is no alternative meaning)

6) v 340-341 (671-672)

Printed: ... medire ...
Correct: ... me dire

2) v 215 (442)

Mistake in the French questionnaire.
US: Do you think that a woman has to have a home in order to be fulfilled or is it not necessary?

- 1. Needs children.
- 2. Not necessary.
- 9. Don't know.

F: Do you think that to be fulfilled a woman

- 1. Needs to have children.
- 2. Or is it not necessary.
- 9. ?

7) v 368 (742)

Printed: 7. De 100.000 a 49.999.
Correct: 7. De 100.000 a 499.999

(Bruno Vannieuwenhuys)

<付記>

今回の共同作業は(株)日本リサーチ・センターからの研究助成にもとづいてなされたものである。取締役調査研究本部長の飯嶋建治氏には、いつも暖かいご支援をいただいている。改めて心から感謝の意を表したい。

3) v 242-246 (472-476)

Mistake in the printed instruction (read by the interviewer, probably corrected automatically by the interviewer) .

Toward a Secondary Analysis of the World Values Survey Data (4)

ABSTRACT

The purpose of this study is to evaluate the data from the World Values Survey which has recently attracted global attention. The 1990 version of this survey was conducted in 43 nations under the supervision of Ronald Inglehart at the University of Michigan. That university has established an international reputation for its social science data collection, management, and analysis. This paper first explains the development and growth of data archives in Europe and the USA, which is based upon a survey by Erwin K. Scheuch, "From a Data Archive to an Infrastructure for the Social Sciences," ISSJ, 1990. Because one of the most critical aspects of any empirical study is the ability to confirm the results through replication, the second part of this paper evaluates the French data used in Inglehart's World Values Survey.

Key words; secondary analysis, data archive, French data